

全久院報

松本市深志3-7-50 電話 0263-36-3211

全久院令和の大改修

4月本堂完成

皆様の寄付などのご協力をいただき、本堂の改修工事が完成しました。震度7に対応できる耐震化、傷んだ壁などの内装の改修、エアコンを設置し天井や床に断熱ボードを入れ暖冷房の効率化を行いました。また照明器具も新しくしました。



設計の川上先生が最終の点検に来た時、居合わせた方が「以前の本堂と変わりありませんね」と言われたそうです。「ヤッター！」と思ったそうです。以前の建物の雰囲気を残すという思いと、技術がなければできない仕事であり、それを評価してもらえたという喜びの声、だとのことでした。



た。先生の思いを理解できるエピソードです。

本堂に入っていただくと、真っ白な漆喰が丁寧に仕上げられ、明るくなりました。畳とその下の床板が新しくなり、硬く真っ平な踏み心地の良い床となりました。ギシギシ鳴っていた本尊様



を支える板の間を檜の一枚板に変え、見た目も含め落ち着いた雰囲気醸し出します。また照明もLEDに変えましたので、本尊様もその横の十一面観音様も明るい光の中に浮き上がっています。



本堂横の控えの間も、雨漏りしていた天井板が一新され、また建物のゆがみを直したので、戸の開け閉めが楽になり、エアコンにより一年を通して快適に控室としてお使いいただけます。また庫裡との間の襖を開けるとエアコンの暖冷房を効かせることが出来るので、庫裡も快適にお使いいただけるようになりました。

本落慶式は副住職の普山式に合わせて行いますので、数年先になりますが、そ

の前に檀信徒の皆様対象のお披露目の式を考えてります。詳細が決まりましたらお知らせいたします。今回の改修工事に関しまして、ウクライナ問題、イスラエル問題、コロナ感染症と世界や日本経済が悪化する中での改修工事のスタートとなり、檀信徒の皆様には大変ご心配をおかけしましたが、何とか完成に至り重ねて感謝申し上げます。

また、今日ではアメリカの高関税、イラン問題、激しさを増すイスラエル、分断化する世界など様々な問題が発生し、現在ではさらに工事が難しくなりました。令和4年から計画が始まり4年間をかけ工事が完成したことは奇跡的なことと感謝に耐えません。重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。

後藤先生レポート 7

全久院再興に関係した二つの寺

今回は明治の全久院の再興に関係が深い二つの寺の紹介です。廃仏毀釈で廃寺となってしまった松本城主戸田家の菩提寺「全久院」はそこでいったん寺歴を閉じました。その後再興しようと

人々が動き出すわけですが、その過程で関係のあった寺は現在どのようになっているかみてみましょう。

（１）青龍寺

現在の全久院は明治１１年に青龍寺（「りゅう」の字は龍・竜の両方が使われている）として再出発しました。これは現在全久院の山号に「青龍山」として残り、宮村町から境内へ入る入口にたつ石碑に刻まれているので見るができます。この青龍寺は大町市にあった寺です。水野氏によって江戸時代の中頃に編纂された『信府統記』には、曹洞宗の大洞山靈松寺の末寺として、大町の中では青竜寺と妙喜庵の名があり、いずれも開基や由来は不明としてあります。『大町市誌』（第３巻近世）は「靈松寺記」を引いて、承応２年（１６５３）靈松寺１５世国庵播和和尚の隠居地となり、本尊は１尺の釈迦仏坐像であると記しています。



大町にある青龍寺の建物

４巻近代では、廃仏毀釈によって大町でも廃寺となった寺が多いなかで、安達達淳らの尽力によって靈松寺ほか４ヶ寺は存続となって、青龍寺はこのなかに入ったとあります。安達達淳は全久院の再興に取り組んでいましたので、大町で存続した青龍寺を松本へ移転するという形をとって、全久院を再興することにしました。すぐに全久院という名を復活することが出来なかったのも、とりあえず青龍寺という寺名で再興をしたわけです。今回の本堂の改築で、屋根板として使われていた材に青龍寺の文字が書かれていたものが見つかりましたが、こんな経過のなかで書かれた文字だったのではと思われます。以後、大町の青龍寺は「青龍庵」とよんで靈松寺の出張所として使用されていたといえます。現在大町市堀六日町に青龍寺があります。

（２）観勝院

「全久院報」N048に明治２９年３月の火災で全焼したあと、棟梁坂巻儀平氏によって観勝院の庫裏が移築されて、全久院の庫裏になったことが報告されています。この観勝院は、北安曇郡松川村にあった寺です。現在松川村には国重文で有名な銅造菩薩半跏像がまつられている観松院がありますが、この寺とは別の寺です。松川村川西の観勝寺山城へ上る口にあった曹洞宗大和山観勝院で、廃仏毀釈で廃寺となってしまいました。『松川村誌』には室町時代の後期に大町の大澤寺５世功岩玄策を開山として仁科氏の影響を受けて創建され、江戸中期の文書には本堂８間×１１間、７間×４間の客殿、９間×７間の庫裏などがあったと書かれています。大きな寺でした。



松川村の観勝院の跡地

山門はこのときは９尺×９尺５寸という小さなものでしたが、幕末の嘉永５年（１８５２）に再建され大型の堂々とした山門に変わりました。廃寺になるとこの門は安達がいる靈松寺へ引き取られ、明治１１年に移築完成して、現在長野県宝になっています。庫裏は

江戸中期に9間×7間でしたが、廃寺になったときは8間×11間だったというので、これも江戸の中期から後期の間に建て替えられていたようです。この庫裏は帰農した住職へ払い下げられたといいます。これがその後明治30年に全久院が譲り受けた庫裏です。

現在、観勝院の跡地には説明板や石碑や歴代住職の無縫塔などが残るだけです。(後藤 芳孝)

今年のお盆は？

新本堂で行われる最初の施食会となります。エアコンも付きましたので涼しい本堂でお参りしていただけます。断熱材を天井と床下に入れたことで、音の響きもよくなったように思います。

施食会 **施食会の日程** 皆様にお配りする施食旗の封筒の説明書きは例年のものです。今年のお盆用ではありませんので、**全久院報の記事の説明をご参照ください。**

8月5日(水) **10時30分** SVA(シャントイ国際ボランティア会)支援バザー。

11時30分 食事。

12時 完成した本堂の見学。

12時20分 全久院うたの会(花かんざし)と一緒に歌いましょう。

12時45分 大黒の歌と、みんなで歌いましょう

13時15分 音喜楽 boys(オキラクボーイズ)コンサート。

14時 法要、

15時 お塔婆の配布。

参会者の皆様へ

- ・大変暑い日が予想されます。冷房をつけ、冷たい麦茶を用意します。体調にお気をつけてお越しください。
- ・**食事のご希望の方は**施餓鬼の五色旗が入っている「施餓鬼供養米袋」に1000円以上を入れ、受付にお出しください。ここ数年コロナ以後食事をお出ししませんでしたから、何人の方が希望されるか分からず、お弁当を何個用意したらよいか把握できません。食事ご希望の方は電話(36-3211)かファックス34-4300でその旨お知らせください。宜しく願いいたします。

塔婆の配り方 後日お塔婆を取りに来られる方は

- ・塔婆の棚を玄関に出しておきます。**各自ご自分で探してお持ち帰り**ください。
- ・お盆費用をお持ちくださり、お支払いいただく場合は、チャイムを鳴らし、寺の者をお呼び出してください。

お盆参りのお知らせ

お盆参りの予定を次の表にしましたのでご覧いただき、ご準備をお願いします。本年は副住職俊浩が松本市の北半分を回り、私が南半分を回ります。毎日80軒前後の軒数を回ります。朝7時半から夕方7時ころまで回ります。事前にお配りする、盆旗を入れた案内の封筒に記入した期日と時間どおりにお参りがなかった場合は、電話などでお問い合わせください。今年の予定は下記の表のとおりです。**住職と副住職の回るコースを本年は入れ替えます。**

8月	副住職の回る範囲	住職の回る範囲
10日	安曇、明科、麻績など超遠方	安曇、明科、麻績など超遠方

11 日	並柳、寿、塩尻、村井、平田、など市外南部	笹部、征矢野、南原、石芝、二子、笹賀、神林、石芝、など市外南部
12 日	筑摩、神田、山辺、惣社、横田、大村、元町、原、岡田など市外北部	宮田、高宮、南松本、荒井、新村、波田、桐、沢村、蟻ヶ崎、城山など
13 日	源地、日ノ出町、県、西小松、清水、県、四谷、女鳥羽、下横田など市内北東部	宮村、埋橋、筑摩、庄内、本庄、東中条、豊田町、南新町、井川城、など市内南部
14 日	裏町、片端、下横田、女鳥羽、旭町、元町、横田、美須々、浅間、北深志、沢村、田町、上土、六九など市内北西部	井川城、鎌田、本庄、博労町、天神、宮村、中町、小池町、飯田町、高砂町、島内、蛇原、
15 日	丸の内、蟻ヶ崎、城西、宮渚、城山、新橋、島内などと、留守だったお宅、	島立、白板、渚、巾上、伊勢町、国分町、留守だったお宅
16 日	留守だったお宅	留守だったお宅

棚経 お盆の棚経では例年どおり、以下の三つの方法にて棚経のご対応をお願いいたします。

1、以前のとおおり、仏間で、仏壇や盆棚に盆飾りをするか、2、玄関先へ盆飾りを出して、お寺が家に上がらずにお参りできるようにする。

3、お盆参り、今年は断る

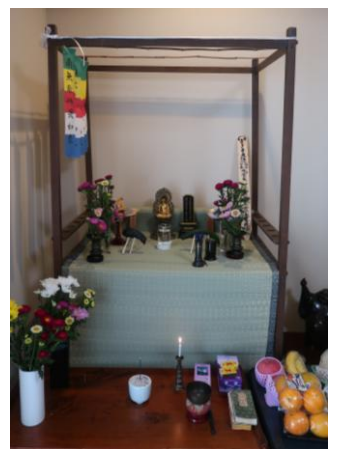
以上三つの方法を考慮いただき、3番をご希望の方はお盆の前に電話などでお知らせください。

盆棚の飾り方

右の写真は松本地方の伝統的な盆棚の飾り方です。それぞれの家によって代々伝えてきた飾り方を大切に、お盆をお迎えください。また下記に一般的な飾り方を示しますので、飾り方の不明な部分はどうぞ参考にしてください。

1、棚を作る場合（右の写真参照）

上の段に本尊様、（本尊様は仏壇の中に入れ、盆中は扉を閉じておくというお宅もあります。その家のやり方を尊重してください。）お位牌、塔婆を奉る。お位牌は古い順に、向かって右、新しいものは左へお祀りします。2段目には供物をお供えします。お供物には二種類あります。水（お茶）、食（お膳、果物、菓子、嗜好品）などで



す。3段目に過去帳、花、燭台、線香立て、鐘、マッチや火消しや線香入れなどの道具をおきます。

2、仏壇を使う場合（右の写真参照）

仏壇は常のとおおり祀る。仏壇や、手前に経机や机を出すお宅は机の上に、過去帳や花や鐘などを飾る。その他灯笼や飾り花、いただいた供物などは写真のとおおり適所に飾る。

3、玄関先に飾る場合（左の写真参照）

玄関先に手ごろな机を出し、お位牌・燭台・



線香立て・鐘・供物をお飾りする。感染症の心配はないかと思いますが、念には念を入れとお考えの方はこんな方法も良いかと思います。

またお寺が配る五色の盆旗は、写真のように広げて糸などを通して吊るか、棚に広げておいてください。お飾りの方法の一例です。ご先祖様をお迎えするという気持ちをこめて、その家に伝わった方法で飾っていただくのが大切なことと思います。

全久院の集い

全久院では、座禅会・御詠歌の会・観音講・うたの会、表千家茶道稽古などの会を行っています。今回は座禅会の内容をお伝えします。

坐禅会・・・七十二則「中邑獼猴（ちゅうゆうみこう）」・・・

この則は、中国800年ころ、若き仰山和尚が大先輩の中邑に「仏性とはどうゆうものか」と問答を掛けたところから始まる。中邑は「人間の持つ6つの感受能力（眼、耳、鼻、舌、身、意）の6つの窓がある部屋中にいる猿だ」と答えた、という禅問答を説いた即です。仏教ではこの6つの能力を6根（修験者が6根清浄、お山は晴天と唱えた元になっています）と呼び、ものを考える時、眼で見て、耳で聞いて、鼻で匂いを嗅ぎ、舌で味を味わい、体で触り、心でものを捉えます。しかし、私たちは眼耳鼻舌身意（げん に び ぜつ しん い）の6根にとらわれ過ぎて、部分しか捉えることが出来ず、全体を把握出来ないのが常です。

「紅爐上一點の雪」という禅語の掛け軸をご覧になった方も多いことと思います。有名な句で茶掛けにも多く使われます。真っ赤な爐の上に舞い落ちる雪の哀れさや季節感を表して、皆に好かれ、床の間に飾られます。が、実は生死を掛けた禅問答です。月庵（げつあん）和尚が抜隊禅師を組敷いて、刀で突こうとし、「貴様を突き殺すがどうだ？」抜隊禅師曰く「紅爐上一點の雪」。この答えは火の上で今にも消えそうな雪と同じだと、理解できそうですが。月庵「解けたらどうする？」抜隊「雨（あめ）霰（あられ）雪や氷と隔（へだ）つれど 解くれば同じ谷川の水」と切り返した。一対一の命を懸けた真剣勝負の中での問答です。眼耳鼻舌身意と人間を分析するのではなく、命を懸けた一瞬のところでは、眼耳鼻舌身意を飛び越え、一番元の所へ行けば、全ては同じ、谷川の水だよ。それを見極められる人でなくてはならないよ、ということになりましょう。眼耳鼻舌身意という6根の窓から猿を見ると様々な猿が見えてしまい、猿の本質は見えなくなる。私たちはどうしても細分化した一面に捕らわれて、益々本質から離れた処でもがき苦しんでしまう、そんな人間の有り様を説いたものでしょう。そこを突破するのが禅です。

大黒コーナー・・・オペラ ルチーア・・・

「オペラを楽しむ会」、第13回公演 オペラ ヴェルディ作曲『ルイザ・ミラー』が令和9年6月12日（土）、13日（日）、まつもと市民芸術館主ホールにて行われます。

ソリスト、合唱ともに本番を目指して、皆様に楽しんでいただける舞台をと、頑張って稽古を進めています。皆様、お越しいただきまして、日常では味わえないような美しい音楽・・・歌とオーケストラ、舞台など、イタリアオペラの神髄を共に感じていただけます



と幸いです。背面に大きな字幕を映しだしとても分かりやすいと好評でございます。

原作はシラーの『たくらみと恋』。舞台は17世紀前半のチロル地方。退役軍人の娘ルイザと、正体を隠した領主の息子ロドルフォの悲恋を軸に、権謀術数が絡む悲劇が描かれており、登場人物の心理が、情熱的でとても美しい音楽で表現されています。ヴェルディ中期の傑作とされています。日本ではあまり上演される機会はありませんが、感動的で温かさが感じられるオペラです。楽しみに是非お出かけくださいませ。お待ちしております。（倉科京子）

掲示板（皆様のご参加お待ちしております）

（お寺の都合により予定変更があります。寺に連絡して確認しながらご参加ください）

～施食会～

8月5日（水） 10時30分 SVA（シャンティ国際ボランティア会）支援バザー。持ち帰るのに便利な風呂敷や紙袋など持ち寄ってお越してください。11時30分 食事。12時 完成した本堂の見学。12時20分 全久院うたの会（花かんざし）と一緒に歌いましょう。12時45分 大黒の歌と、みんなで歌いましょう13時15分 音喜楽 boys（オキラクボーイズ）コンサート（写真）。14時 法要、15時 お塔婆の配布。なお7月に前もってお配りする施食旗の封筒の説明書は例年のものです。今年のお盆のものではありませんので、「全久院報」の記事の説明に従ってください。



食事のご希望の方は施餓鬼の五色旗が入っている「施餓鬼供養米袋」に1000円以上を入れ、受付にお出してください。コロナ以後食事をひかえましたので、何人の方が希望されるか分からず、お弁当を何個用意したらよいか把握できません。食事ご希望の方は電話（36-3211かファックス34-4300でその旨お知らせください。宜しくお願いいたします。

．．． 座禅会 ．．．

8月はありません・9月19日（土）・10月17日（土）・11月21日（土）・12月19日（土）。以上が下半期の日程です。毎回夕方4時集合、4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。座禅を経験していただくだけでなく、ものの見方や生き方を豊かにすることができると思います。ぜひご参加ください。

．．． ご詠歌会 ．．．

8月はありません・9月9日（水）・10月14日（水）・11月11日（水）・12月9日（水）午前10時30分より12時まで、白板 東昌寺住職 飯島恵道師にご指導いただきます。一緒にいかがですか。また、ご詠歌を始めたいという方に大黒が初心者コースを担当します。ご希望の方はぜひご連絡ください。

．．． 観音講 ．．．

毎月１７日 １０時から１２時半まで行います。内容は１０時から観音様にお勤めと住職の話し、１０時４０分からご詠歌、１１時２０分から大黒の指導で唱歌の合唱１２時より茶話会という日程です。現在１５人ほどの参加者がいます。気よりも良く６０代から８０代の方が元気に集まってきました。気楽な会ですのでぜひご参加ください。１７日が土・日曜日に当たる場合は日をずらしますので、寺に確認ください。

．．． うたの会（花かんざし） ．．．

８月１９日（水）・９月２日（水）・９月１６日（水）・１０月７日（水）・１０月２１日（水）・
１１月４日（水）・１１月１８日（水）・１２月２日（水）・１２月１６日（水）

午前１０時より１２時まで、お茶休憩をはさみ大黒が指導します。発声練習をして、唱歌、童謡、懐かしい曲など一緒にいかがですか。また、ハーモニーを付ける曲もあります。他の催しへの参加なども企画しています。音楽を通した楽しい友達もできますよ。お待ちしております。

．．． 表千家茶道稽古場 ．．．

月曜日 １３時から、水曜日 １８時から、金曜日 １８時半から、土曜日 １３時から稽古を始めます。その３０分前から炭火を入れるなどの準備を始めますので、準備が整い次第稽古を始めます。先代が稽古を始め、２～３週間ごとに掛け軸や道具が変わります。四季折々季節に合った道具に変えながらの稽古となります。参加できる曜日を決めていただき、一月に４回の稽古です。月謝は５０００円です。興味のある方はどうぞ一緒に稽古をしてみませんか。

．．． 全久院 ホームページ ．．．

<https://zenkyuin.or.jp/>

全久院ではホームページオを開設しています。「全久院報」をネットで見えていただけるようにしてあります。管理をしてくれている檀家の丸山耕一さんと親しみやすいものにして行きたいと考えています。また、皆様と意見や情報を交換できる場に育てて生きたいと思います。ぜひ一度開いて見てご意見ください。

．．． 全久院 インスタグラム ．．．

zenkyuin

令和の大改修もいよいよ本堂の工事に入ります。工事の経過など写真も含めて皆様に最新情報をお届けしたいとの趣旨でインスタグラムを始めます。その他の全久院の行事等の情報も流しますので是非ご覧ください。わたしもスマホやパソコンの使い方が不得手で、なかなか馴染めませんが、インスタグラムのアプリをダウンロードして、インスタグラムを開き、検索マークをクリックし、zenkyuin を入力してください。あるいは右の QR コードを読み込んで全久院のインスタを開きください。宜しくお願いします。



@ZENKYUIN